

## 福島新エネ社会構想ワークショップ 河野外務大臣スピーチ

ご列席の皆様

本日は、福島新エネ社会構想ワークショップにお集まりいただきありがとうございます。外務省を代表して皆様の参加を歓迎し、開催にご尽力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

世界のエネルギー情勢に地殻変動が起き、パリ協定の発効を機に気候変動対策の重要性がますます高まる中、今後のエネルギーのあり方は日本自身にとっても世界全体にとっても極めて大きな課題です。本日御紹介する「福島新エネ社会構想」を通じて、日本は、福島の地から、新たなエネルギー社会のあり方を世界に向けて発信していきます。

（東日本大震災と福島の苦しみ）

2011年3月11日、日本は東日本大震災に見舞われました。桜の季節を間近に控えた金曜の昼下がり、マグニチュード9.0の巨大な地震が東日本の広い範囲を突如激しく揺さぶり、続いて最高40メートルにも達する津波が押し寄せました。この数百年に一度とも言われる大規模な災害により、2万人近くが命を落とし、今もなお2500人以上が行方不明となっています。

東日本大震災は、福島第一原子力発電所の事故も引き起こしました。原発周辺の住民が避難を余儀なくされるなど、福島では多くの人々の暮らしが厳しい状況に置かれることとなりました。

（復興の進展と残る課題）

大きな被害をもたらした東日本大震災から、6年10か月が経過しました。日本は、復興の加速化を内閣の最重要課題に位置付け、取組を進めてまいりました。この間、国際社会からいただいた暖かい励ましと御支援に、改めて心からの感謝を申し上げます。

復興は着実に進んでいます。被災地の学校、病院、道路等のインフラの復旧は、ほぼ完了しました。福島においても、除染の取組等の結果、放射線量が着実に下がり、ほとんどの地域で避難指示が解除されました。

一方で、復興を更に推し進める上で、課題も残っています。例えば、食品安全に関する、科学的根拠に基づかない風評や偏見・差別の問題です。福島は豊かな自然に恵まれた土地柄であり、コメや桃などの名産地です。しかし、原発事故後、放射性物質への懸念から、福島産食品を控える動きが国内外で見られるようになりました。

日本は、食品安全を確保すべく、科学的根拠により設定された、世界で最も厳しいレベルの検査を行っています。検査に合格したもののみが市場に流通しており、また不合格となる食品の割合は年々減少しています。こうした日本の食品安全管理やモニタリングの体制については、国際原子力機関（アイエーイーエー IAEA）や国連食糧農業機関（フアオ FAO）などの国際機関からも適切であるとの評価を得ています。

日本として、こうした事実を積極的に国際社会に発信し、理解を得ることは極めて重要だと考えています。日本政府としても積極的に取組を進めており、最近ではEUが福島県産のコメを規制対象品目から除外するなど、進展が見られています。

（新たなエネルギーの未来と「福島新エネ社会構想」）

更にもう一段復興を進め、明るく希望のある未来を描くためには、現在の福島の姿を正しく発信することに加え、今後の福島が目指すビジョンについても、広く国際社会に発信していくべきと考えています。大きなビジョンの一つが、本ワークショップのテーマである「福島新エネ社会構想」です。東日本大震災から5年の契機に、安倍総理大臣から打ち出され、日本政府全体として推し進めているものです。

日本は、福島の地から、新しいエネルギー社会のあり方を世界に発信すべく、様々な取組を強化してきています。

この「福島新エネ社会構想」の下で進められている様々な取組について、国際社会にもっと知っていただくべく、日本政府としても発信を強化してきています。例えば、在京外交団を対象に、福島への視察ツアーを実施してきています。2016年8月に実施したツアーでは、日本で唯一の再エネに特化した研究機関である産総研・福島再生可能エネルギー研究所を訪問しました。日本の先端技術である世界トップレベルの変換効率の太陽電池材料の開発状況や、スマートコミュニティに不可欠の太陽光・風力発電と蓄電池を組み合わせる最適運用する制御技術、水素を効率よく運ぶための有機媒体の性能評価などといった最先端の取組を紹介し、大変な好評を博しました。

本日のワークショップは、新エネ・再エネに深い知見と関心をお持ちの方に世界中からお集まりいただき、福島新エネ社会構想について紹介する、またとない機会であると思います。是非この構想について理解を深めていただき、有意義な意見交換を行うことができればと思います。また、ジャパンパビリオンにおいて、福島新エネ社会構想に参加している日本企業の展示や、福島の復興に関する展示も行っています。是非その目で日本の先端技術の一例に触れていただくとともに、福島の復興の現状を見ていただきたく、皆様の来場をお待ちしています。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。福島で作られた水素を東京オリンピック・パラリンピックの際にも活用することを目指しています。既に東京では、水素を使って動く燃料電池バスの運行が始まりました。是非東京に来て、水素で動く公共交通機関を体感してください。また、福島をはじめ、東北にも是非足を運んで、豊かな食や文化を楽しんでください。心から歓迎させていただきます。

(結語)

福島が新たなエネルギーの先駆けの地となることは、福島の更なる復興につながるとともに、また世界のエネルギーの未来にも明るい光を点すものと信じています。今日のワークショップが、その重要な一歩となることを祈念して、私からの挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

(了)